

熊本地域乗合バス事業共同経営
に関する状況報告
(2024年7月)

共同経営推進室

室長 高田 晋

1 共同経営計画について

2 路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進

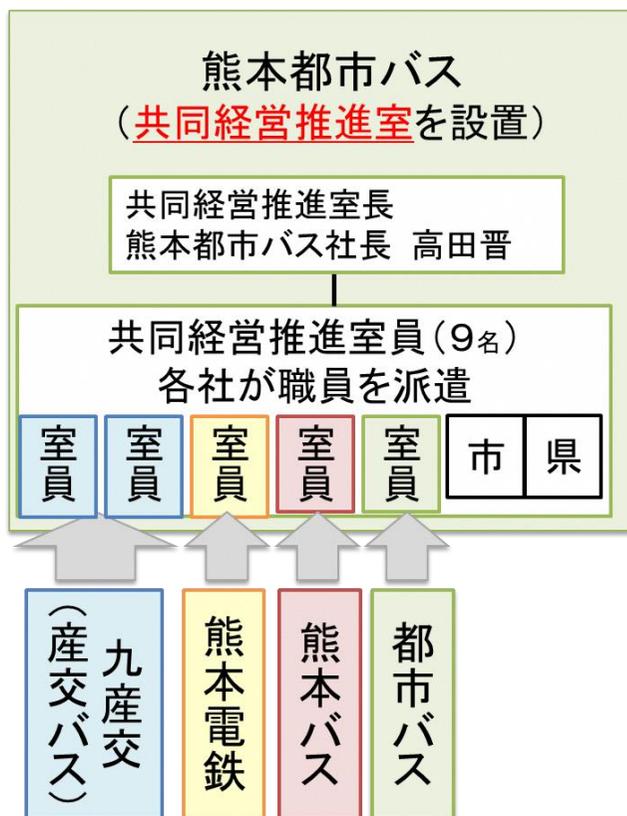
3 共同経営推進室 2024年度事業について

4 運転士数の概況

5 交通系決済サービスの今後の展開について

熊本の公共交通ネットワークにおいてバス交通が担うべき役割（=あるべきバス路線網）を将来にわたり維持し、かつその利便性・生産性を最大限向上させるため、会社間の垣根を越えて路線再編等の取組を実施するため、2020年4月より「共同経営準備室」を設置し、2021年3月より「共同経営推進室」に移行

体制



施策

- バスデータ公表 (2020~2023年)
- 重複区間の最適化 (2021年、2022年)
- 共通定期の開始 (2022年)
- 運行時分の適正化 (2022年~)
- 利用者2倍増に向けた取組 (2022年~)
- 熊本市内中心部180円均一運賃 (2023年~)

申請者

- (1) 九州産交バス株式会社
- (2) 産交バス株式会社
- (3) 熊本電気鉄道株式会社
- (4) 熊本バス株式会社
- (5) 熊本都市バス株式会社

計画区域・対象路線

複数のバス事業者が重複して運行する代表4区間+効率化で生じた余剰の充当天（熊本駅周辺の開発の対応） ※右図参照

共同経営の概要

- ①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置、熊本駅方面の路線延伸（余剰の充当天）
- ②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化
- ③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、系統移譲に伴う定期券の継続措置
- ④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉
重複路線の見直し、待ち時間の平準化、2社共通の乗継割引、熊本駅方面、武蔵ヶ丘・光の森方面の路線延伸（余剰の充当天）

共同経営の目標

- ①収益性・効率性の向上
重複区間の効率化等により、収益性は約31百万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減
- ②サービス提供維持の目標
利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

実施期間 令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間

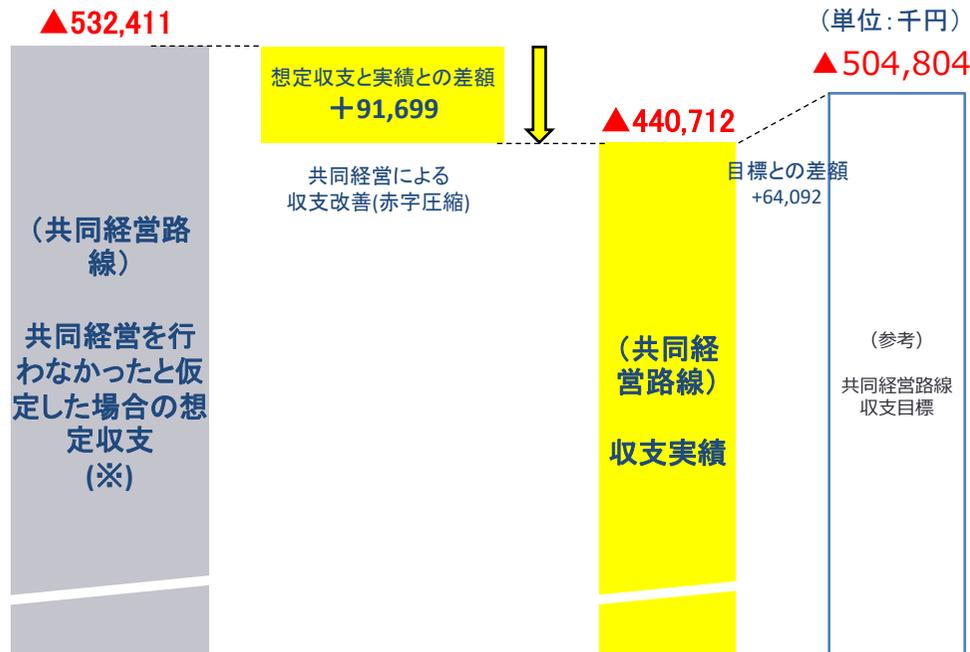


- ▶ 共同経営計画第1版(4方面)において、共同経営を行わなかったと仮定した場合の想定収支に対し、2021年度では91,699千円、2022年度では86,156千円の改善(赤字圧縮)。また、いずれの年度でも収支目標を上回る改善を達成。
- ▶ 重複区間の解消等を始めとした効率化施策において一定の収支改善効果があったこと視える。

共同経営路線(第1版:4方面)に係る収支改善効果(共同経営5社合計)の試算

<2021年度>

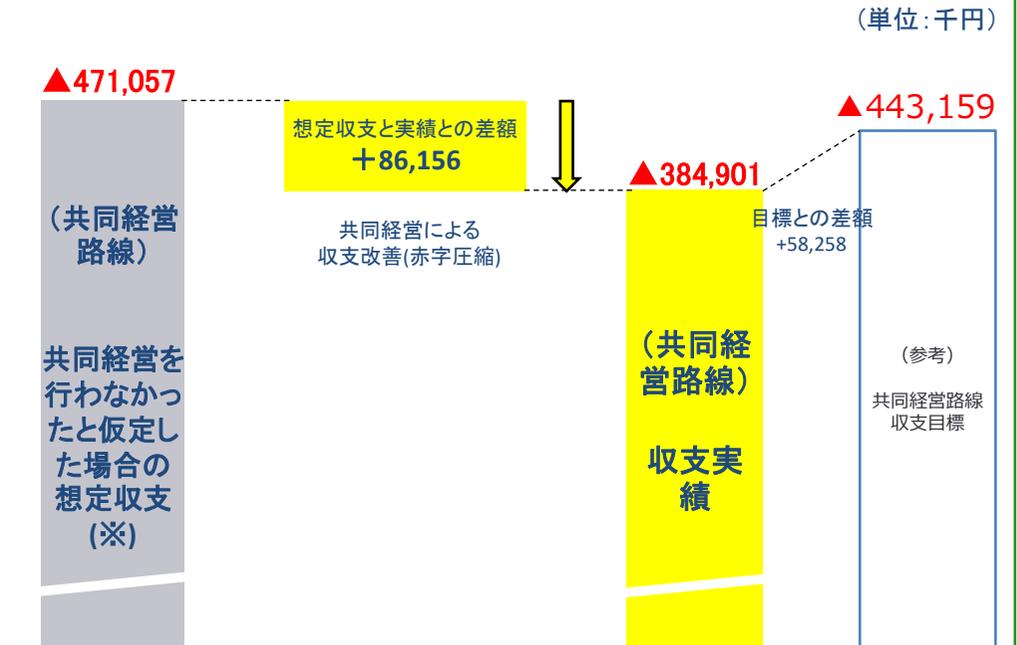
(単位:千円)



※想定収支には、2021年度のコロナ影響による減収実績(▲16.6%)を反映済み。

<2022年度>

(単位:千円)



※想定収支には、2021年度のコロナ影響による減収実績(▲9.7%)を反映済み。

2022年11月1日から開始

申請者

- (1) 九州産交バス(株) (2) 産交バス(株) (3) 熊本電気鉄道(株)
(4) 熊本バス(株) (5) 熊本都市バス(株)

実施期間

令和4年11月1日～令和7年10月31日までの3年間

共同経営の概要

① 県庁方面系統の最適化

- ・ 経路変更や廃止による輸送の効率化、
都市バス秋津健軍線の廃止→九産交バス木山線の一部迂回で、
利便性を確保しつつ、効率化
- ・ 待ち時間の平準化〔県庁通り（砂取校前～北窪間）〕

共同経営の目標

① 収益性・効率性の向上

重複区間の効率化等により、**収益性は約24百万円の改善、サービス維持に必要な人員5人/日・車両4台/日の軽減**

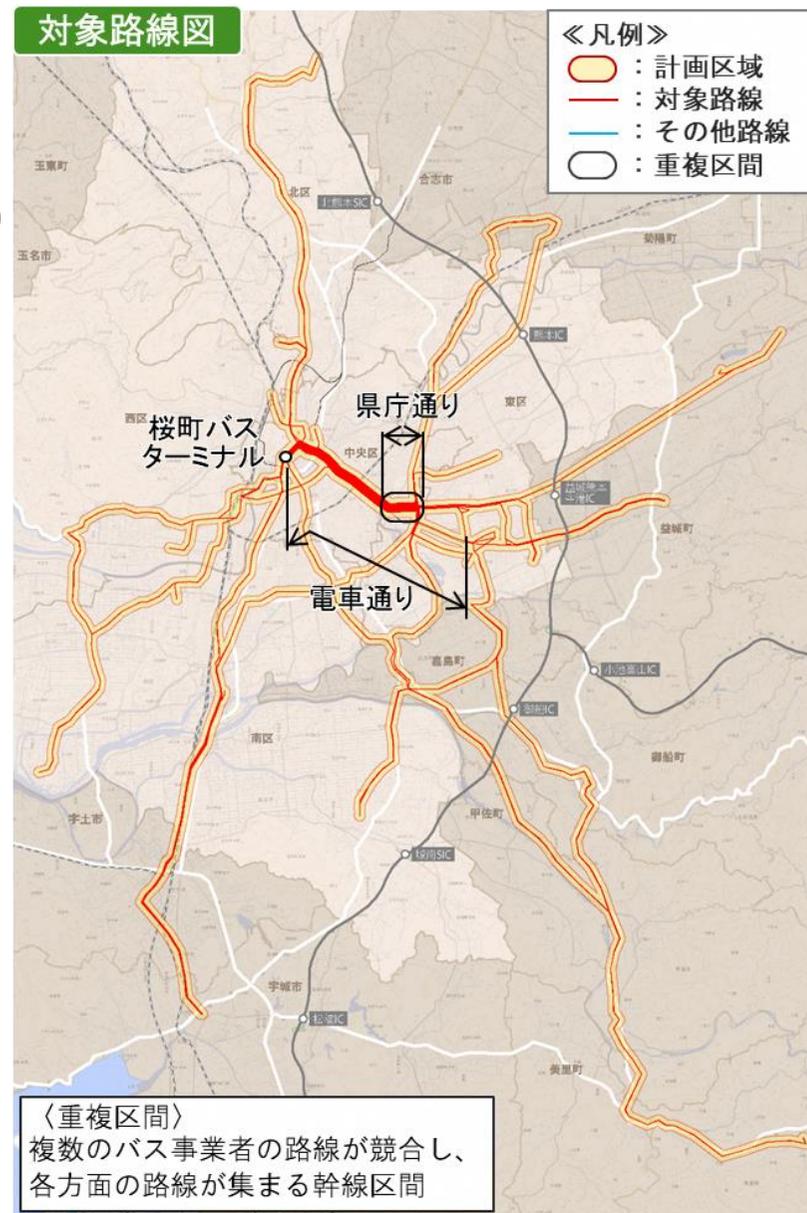
② サービス提供維持の目標

利用者利便の水準を維持しつつ、対象44系統のサービス維持

③ 労働環境の改善

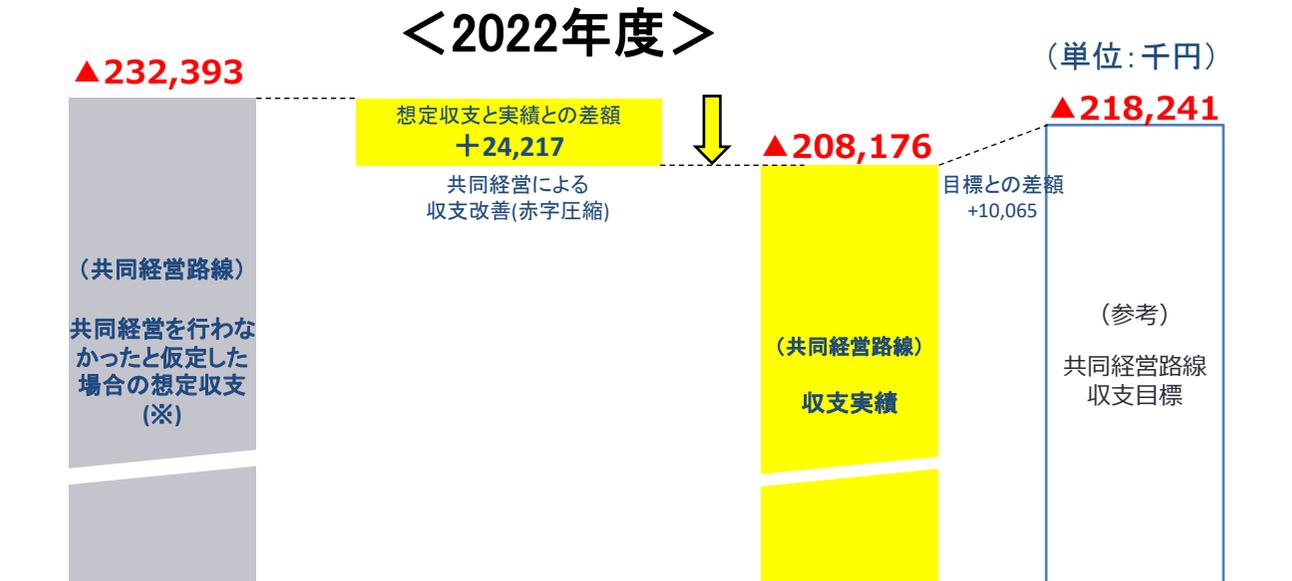
輸送の効率化による余剰で、運転手の労働環境を改善しつつ、現行の輸送サービスを維持する

対象路線図



- ▶ 2022年11月以降の共同経営計画第2版(県庁通り方面)において、共同経営を行わなかったと仮定した場合の想定収支に対して**24,217千円の改善(赤字圧縮)**となり、収支目標を上回る改善を達成。
- ▶ ここでも、重複区間の解消等を始めとした効率化施策において**一定の収支改善効果があったことが覗える。**

共同経営路線(第2版:県庁通り方面)に係る収支改善効果(共同経営5社合計)の試算



※共同経営による運行開始は2022年11月であるが、年度(4~3月)ベースでの比較を行うために、年間想定収支を共同経営開始前7ヶ月(4~10月)分と開始後5ヶ月(11~3月)分とで加重平均したもの。
 ※第2版は第1版の一部系統も含む

共同経営路線（第1版、第2版）における業務等の改善実績 （乗務員、車両-路線調整）

▶ 2022年度において、経営計画通りに運行体制を効率化できた結果、次のとおり人員数と車両数の削減につながった。

事業者名	曜日	運転士数の変化(人)
九産交	平日	▲ 4.7 人
	土曜	▲ 5.0 人
	日祝	▲ 2.9 人
産交	平日	0.0 人
	土曜	0.0 人
	日祝	0.0 人
熊本電鉄	平日	▲ 1.6 人
	土曜	▲ 1.4 人
	日祝	▲ 1.4 人
熊本バス	平日	▲ 0.8 人
	土曜	▲ 0.4 人
	日祝	▲ 0.4 人
都市バス	平日	▲ 3.5 人
	土曜	▲ 2.6 人
	日祝	▲ 0.3 人
合計	平日	▲ 10.6 人
	土曜	▲ 9.4 人
	日祝	▲ 5.0 人

事業者名	曜日	車両数の変化(台)
九産交	平日	▲ 3.9 台
	土曜	▲ 4.3 台
	日祝	▲ 2.4 台
産交	平日	0.0 台
	土曜	0.0 台
	日祝	0.0 台
熊本電鉄	平日	▲ 1.3 台
	土曜	▲ 1.1 台
	日祝	▲ 1.0 台
熊本バス	平日	▲ 0.8 台
	土曜	▲ 0.4 台
	日祝	▲ 0.4 台
都市バス	平日	▲ 2.7 台
	土曜	▲ 2.6 台
	日祝	▲ 0.5 台
合計	平日	▲ 8.7 台
	土曜	▲ 8.4 台
	日祝	▲ 4.3 台

共通定期 2022年4月1日より



これまでの定期券

熊本バスや熊本都市バスのバスもあるのに、定期の会社のバスしか乗れないのは不便だわ・・・



4月1日以降販売の定期券

全ての会社のバスが利用できるようになったので、とても便利になったわ！



桜町バスターミナル



県庁前



桜町バスターミナル



県庁前

産交バスの定期をお持ちの場合
利用可能便数
105便

※便数は平日片道

熊本バスや熊本都市バスも利用可能になり
利用可能便数

153便に **46%UP**

※便数は平日片道

2022年度実績

3,752,263人 × 100/107 = 3,171,557人

2022年度の
定期利用客数

コロナ回復効果
(定期券以外の
利用者伸び率)

2021年度の
定期利用者数

= 335,231人

定期券純増効果

2023年度実績

4,300,469人 × 100/109 = 3,752,263人

2023年度の
定期利用客数

コロナ回復効果
(定期券以外の
利用者伸び率)

2022年度の
定期利用者数

= 193,121人

定期券純増効果

ICカード 支払い手段	2022年度	2023年度	前年差	前年比
定期券	3,752,263人	4,300,469人	548,206人	115%

熊本市中心部180円均一運賃

実施期間

令和5年10月1日～令和8年9月30日までの3年間

共同経営の概要

市内中心部エリアの均一運賃（180円）の導入

対象区域内で完結する路線バスの運賃を180円均一とすることにより、区域内を運行する路線バスと市電の運賃が同一となり、バスと市電で需要に偏りを是正し、市電の混雑緩和を目指すことで、公共交通利用者総数を増やしていく。

均一運賃効果(2023年10月～2024年3月)
(2023年均一エリア内人員)-(2022年均一
エリア内人員×全路線の前年比)

$1,570,964 - (1,384,434 \times 107.8\%) = 78,544$ 人利用者増



【路線バス利用者増に向けた取組について】

- 「マーケティング」手法を用い、市場に存在する顧客を、価値観やニーズが共通したグループ（①通勤 ②通学 ③私用 ④高齢者）に分類。
- それぞれの顧客グループが持つニーズを満たす「バスの価値」を提供することで、利用者を増やす。

2023年度利用促進目標

2023年度利用促進実績値

47万人



93万人

目標達成

2019年度利用者数

2022年度利用者数

2023年度利用者数
(速報値)

2,674万人



2,234万人



2,440万人

順調に利用者数を伸ばせているが、コロナ前と比較して1割ほど減っている状況であり
2019年度利用者数を目標とする

2024年度利用者数 **2,600万人** (目標)

通勤：主に**公共交通を活用した渋滞緩和**に向けて活動中

実施主体：大津町渋滞対策プロジェクトチーム

(熊本県 県北広域本部、本田技研工業(株)、構造計画研究所(株)、共同経営推進室・熊本県・大津町)

大津町企業向け 通勤バス実証実験

第1弾 2023年12/18(月)～22(金)

第2弾 2024年3/11(月)～15(金)

大津駅南口～室工業団地～本田技研工業前～本田技研工業前南門

大津駅北口～室工業団地～本田技研工業前～本田技研工業前南門

朝：10便、夕：13便、所要時間：14分～16分

朝：10便、夕：13便、所要時間：12分～16分

★1日あたり平均318人の利用

★1日あたり平均176人の利用

※朝夕遅延：平均5分以内、90%以上が豊肥線との乗継ぎ

※発着を駅北口に変更、概ね定時運行で問題なく列車乗継



通学：バス通学の利用促進活動

協力	熊本県内 7高校
目的	バス通学に関する情報を積極的に提供することで、毎日の通学においてバス通学を利用する方が増えるように、また、日常利用者以外でも、荒天時や傷病時にすぐバス通学ができる状況にしておく。
方法	熊本県内7つの高校の 合格者説明会 にてブースを設置し、バス通学に関する相談を承る
配布物	チラシ、定期券申込書（特別版）、路線図、など
備考	本イベント用の通学定期券申込書を配布。 →「入学/通学証明書」の発行/提出の簡略化 チラシ、定期券申込書、路線図などを学校からの配布資料と共に封入 各バス会社と連携した問い合わせ対応



学校名	訪問日	合格者説明会 ブース来場者数	定期券申込書 による購入数
尚絅	3/14(木)	約35人	16枚
九州学院	3/15(金)	約6人	13枚
済々黌		約160人	103枚
ルーテル	3/16(土)	約80人	48枚
第一	3/18(月)	約120人	73枚
必由館	3/19(火)	約150人	53枚
鹿本商工	3/22(金)	約25人	12枚
計		576人	318枚

※2024年5月集計 7校合計

周知活動

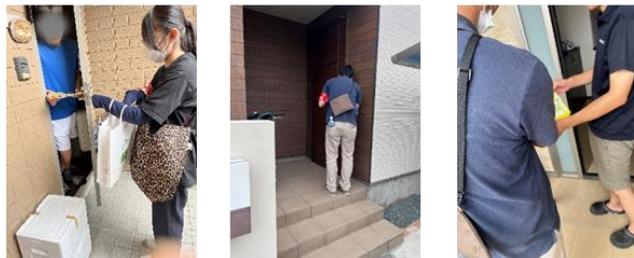
- ・対象となる高校へのオープンスクール開催日でのチラシ配布（写真左）
- ・合格者説明会会場での問い合わせ対応（写真右）

今年度以降活動予定

本活動の学校数をさらに増やす
夏のオープンスクールにてチラシ配布等による周知活動

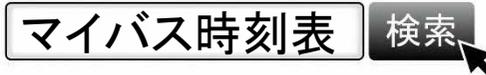
■ 発地側目線の利用を促す情報提供の実施 (戸別訪問)

- ・ 2日間で**180件訪問**(ポスティングのみ含む)
- ・ 配布した結果、全数ではないが、**新規利用、昨年より利用回数増えた方が2/3にあたる。**



■ MYバス時刻表のサイトオープン

- ・ **オープンデータ**を活用して実現
- ・ **無料の日時に無料配布イベント実施**
- ・ **3カ月で1万人以上のユーザー訪問、3500枚印刷実績**



壁・掲示板・冷蔵庫に

ご自宅から よく行く所へ 貼ってください!

バスロケ 連携

大江川鶴 → 桜町バスターミナル
所要約17分 (経路・時刻表、交通状況により前後します)
下級編子・所要時間が長い順です

時	平日 (2023/03/06)	土曜 (2023/03/04)	日祝 (2023/03/05)	時
06	48 53 57 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3	58 F2-104-1	47 55 F2-104-1 F2-104-2	06
07	10 31 34 35 56 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4 F2-104-5	2 45 F2-104-1 F2-104-2	37 F2-104-1 F2-104-2	07
08	00 産交 36 都市 31 41 バス バス F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3	0 42 49 F2-104-1 F2-104-2	05 07 37 40 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	08
09	04 29 42 48 59 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4 F2-104-5	00 05 08 34 41 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	05 07 37 39 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	09
10	06 29 41 48 54 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	08 08 12 37 41 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	08 24 38 42 F2-104-1 F2-104-2 F2-104-3 F2-104-4	10
11				11

5社の全路線 まとめて



■ 目的地 (異業種連携)

- ・ 湯らっくす、ヴォルターズ、イオンと連携して利用促進を実施中



【2023年度の取り組み】

- 無料の日に合わせた利用促進
- スマホを使ったバス乗り方講座
- 運転免許返納に対する意向アンケート

■ スマホを使ったバス乗り方講座



■ 自動車の運転免許の返納に対する意向のアンケート実施

	回答数	割合
いずれ返納するかもしれないがまだ返納予定なし	742	60.1%
返納しない	142	11.5%
返納したいが理由があり迷っている	48	3.9%
近く返納予定	36	2.9%
返納したくないが家族を返納を薦める	16	1.3%
その他	11	0.9%
無回答	239	19.4%
合計	1234	100.0%

■ 「無料の日」に合わせた利用促進

10月7日 (※JRを除く) バス電車無料の日
 タダで山鹿に行こう!!

(一例) 詳しい時刻表は裏面へ

10時— 9:55 板町バスターミナル出発

11時— 11:07 山鹿温泉(八千代産入口)到着

12時—

13時—

14時— 14:01 山鹿温泉(八千代産入口)出発
 14:34 平田橋工到着

15時— 道の駅(すいかの里)でお買い物

16時— 15:35 平田橋工出発
 16:19 板町バスターミナル到着
 16:26 黒本駅前到着

17時—

18時—

さくら湯でバスで来たとお供えください
 入湯料が350円→300円にお安くなります!

おしゃれなランチ
 温泉でリラックス
 バスで来ているからお酒も飲めます!

いつもは移動だけで2,000円以上かかりますが...
 もう一度言います...
バス代無料
 なんです!

※当日は大変混雑が予想されます。お時間には余裕を持って行動して下さい。
 ※本イベントに関するお問い合わせは 共同経営推進室 096-312-0588

共同経営推進室

■ 第1弾 (山鹿方面)

- ・ 山鹿温泉バス停降車人数：
297人 (前年同日35人)
- ・ 山鹿線輸送人員：**4,302人**

12/23はバス電車1日無料の日

12/23は路線バスに乗って、佐侯の湯・山鹿温泉
 菊池温泉にお越しください

※JR、高速バス、特急バス、空港リムジンバスは対象外です。
 ※当日は大変混雑が予想されます。お時間には余裕を持って行動して下さい
 ※本イベントのお問い合わせは 共同経営推進室 096-312-0588

共同経営推進室

■ 第2弾 (山鹿・菊池・美里方面)

★山鹿方面

- ・ 山鹿温泉バス停降車人数：
181人 (前週土曜日29人)

★菊池方面

- ・ 菊池温泉バス停降車人数：
98人 (前週土曜日39人)

★美里方面

- ・ 佐侯の湯前バス停降車人数：
39人 (前週土曜日1人)

事業の概要

・今まで、現場からのヒアリングを基に運行時分を設定していたものを、バスロケから得られる実績データをシステムへ投入して設定することによって、運行時分の信頼性を高めお客様の満足度改善を行う。

実施済路線

2023年4月：熊本バス（中央病院線・田迎線）、産交バス（快速あまくさ号）

2024年4月：九州産交バス・産交バス（富尾団地・植木・山鹿・玉名方面、JA飽田支所-水道町）、都市バス（小峯京塚線一部）

2023年度の実施を踏まえた改善状況

	年	九州産交	熊本バス		産交バス		電鉄バス	都市バス	
		その他	その他	対象	その他	対象	その他	その他	
最大遅延 (50%) [分]	2020	4.4	4.1	3.9	4.1		4.3	2.9	目標：5分以内
	2021	6.1	5.5	5.4	4.5	10.8	5.4	4.0	
	2022	6.7	5.4	5.8	4.4	10.4	5.8	4.5	
	2023	7.0	5.7	5.5	4.5	9.3	6.2	4.8	
最大遅延 5分以内率	2020	62%	66%	67%	67%		63%	85%	目標：50%以上
	2021	37%	44%	45%	60%	8%	44%	64%	
	2022	30%	45%	41%	60%	9%	41%	57%	
	2023	28%	42%	44%	59%	10%	37%	53%	

↑田迎線・
中央病院線

↑あまくさ号
(長距離のため条件が厳しい)

今年度の
取組

- ・ 2024年4月実施路線の効果測定
- ・ 4月改正路線の微調整（渋滞悪化の反映、運転手意見の反映）
- ・ 対象事業者・路線の拡大

熊本地域における公共交通ネットワークの利便性・生産性を最大限向上していくため、県内バス事業者5社が会社間の垣根を超えて、取組みを実施していく。

1 路線バス利用者増に向けた取組実施及び推進

2 バスの運行時分適正化と効果検証

3 路線バスのデータ公表

4 リデザインの取組み

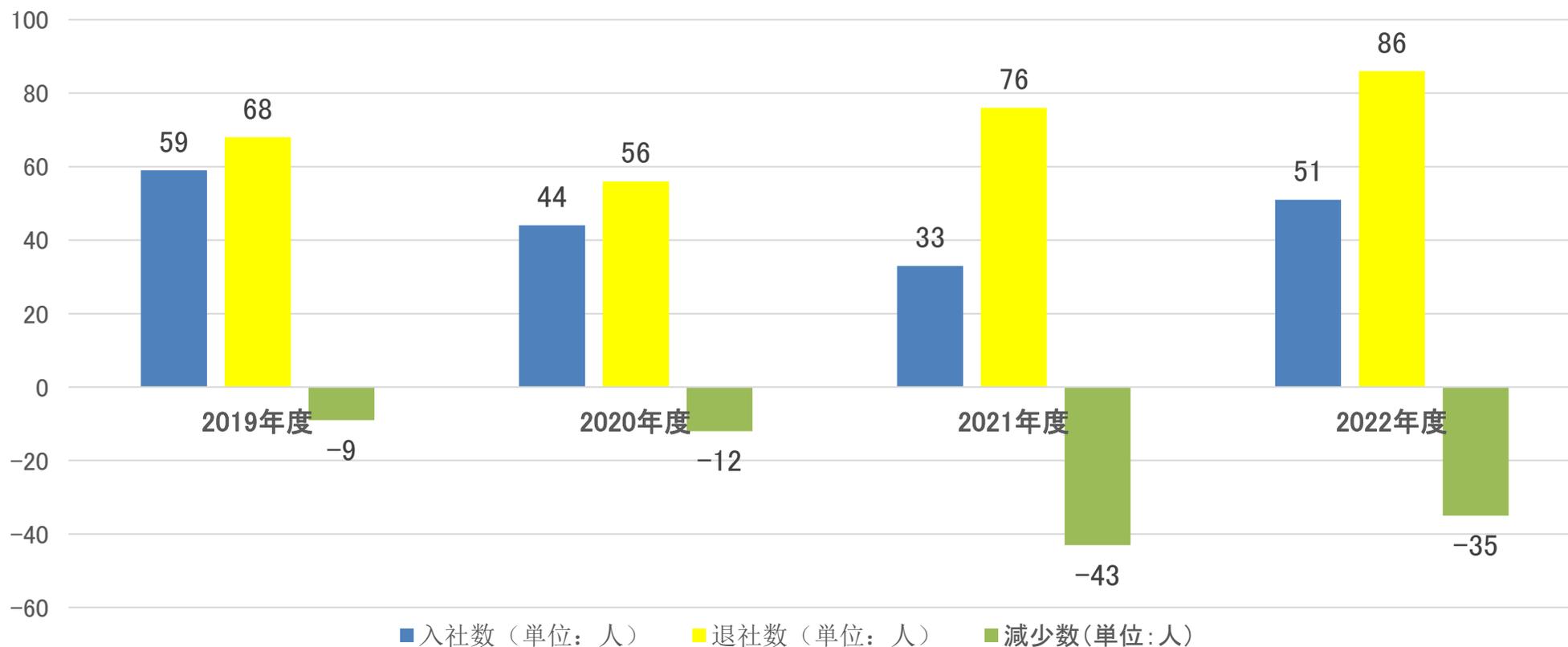
持続安定的にサービス提供するために、交通事業者（電鉄電車、市電、バス、タクシー）、行政が連携し、熊本都市圏公共交通ネットワークのリデザインと共同経営事業の発展を目指すもの

5 交通系決済サービスの変更

共同経営事業を着実に進め、県民市民の皆さんの移動手段の確保に努めていく

- ▶ 2019年度～2022年度の入退社数は、入社187人に対し退社286人となり**4年間で99人減少した**。
- ▶ このような運転士不足の状況の為、一部路線で減便運行、各社間の路線移譲、委託運行等を実施し運行路線を維持してきた。

＜路線バスに従事できる運転士の過去4年間の入退社数（5社合計）＞



出典：事業者資料を元に作成

概要

■ 令和7年（2025年）3月末に全国相互利用カードに関する機器の保守契約が終了にあたり更新費用が高額な（12.1億）全国相互利用カードの片利用環境を取りやめ、障がい者や高齢者の割引、通勤・通学定期といったきめ細やかな対応が可能なくまモンのICカードを維持しつつ、今後のインバウンド需要の拡大を見据えたクレジットタッチ決済を中心とした新決済サービスを導入（6.7億円）を実施する。

決済手段

媒体	現在の決済手段
カード	 全国交通系ICカード
	 くまモンICカード
モバイル	 モバイル型交通系 (Suica, PASMO等)
	 現状は無い



令和7年4月以降
   デビットカード クレジットカード プリペイドカード
 くまモンICカード ※「おでかけIC」・「共通定期券」も利用可
NEW  NEW モバイルクレジット
 バス・電車共通
NEW  企画乗車券面のQRコード化 (QRコード認証)

利用者の状況 (R5年度)

支払種別	路線バス		電鉄電車		合計	
	構成比	利用者	構成比	利用者	構成比	利用者
全国IC	24%	537万人	18%	28万人	24%	565万人
くまモンIC	51%	1,136万人	57%	90万人	51%	1,226万人
現金その他	25%	563万人	25%	40万人	25%	603万人
合計	100%	2,236万人	100%	158万人	100%	2,394万人

更新費用比較

	くまモン+全国交通系IC	くまモン+クレジット等のタッチ決済
費用	1, 2 1 0百万円	6 7 4百万円

今後のスケジュール

時期	内容
夏頃	詳細公表
12月中旬頃	全国交通系ICカードサービス停止
3月頃（年度内）	クレジットタッチ決済等のサービス開始

※タッチ決済やQRコードを活用して、乗継割引やバスと市電の連携施策等を検討中